

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率	発生ほ場数	5	0	7	7	2	28	20	1	1	総調査ほ場数: 66か所 総調査株数: 1,650株 花調査ほ場数: 66か所 総調査花数: 3,300花 (調査株数 25株 (調査花数 50花)) ※ $年比 = (本年平均値 / 平年値) \times 100$ ※アザミウマ類の調査は花調査かつ平年値は過去4年の値
	本年平均値	7.6	0.0	10.6	10.6	3.0	42.4	30.3	1.5	1.5	
	平年値	4.8	0.9	22.6	7.6	9.5	38.5	38.2	3.2	14.7	
	平年比	158.3	0.0	46.9	139.5	31.6	110.1	79.3	46.9	10.2	
	発生程度	やや多	少	やや少	平年並	やや少	平年並	平年並	やや少	少	
株率	発生株数	0	0	13	0	6	213	39	1	4	○今月の病害虫発生状況○ ・一部のほ場で炭疽病、萎黄病が散見されます。 ・うどんこ病の発生はやや少ない状況です。 ・ハダニ類の発生は平年並ですが、一部で発生株率の高いほ場が見られます。
	本年平均値	0.0	0.0	0.8	0.0	0.4	12.9	2.4	0.1	0.1	
	平年値	0.0	0.1	2.4	0.2	1.4	12.1	6.6	0.2	0.4	
	平年比	-	0.0	33.3	0.0	28.6	106.6	36.4	50.0	25.0	
	発生程度	少	少	やや少	少	やや少	平年並	やや少	やや少	やや少	
概 評		平年並	少	やや少	やや少	やや少	平年並	平年並	やや少	少	

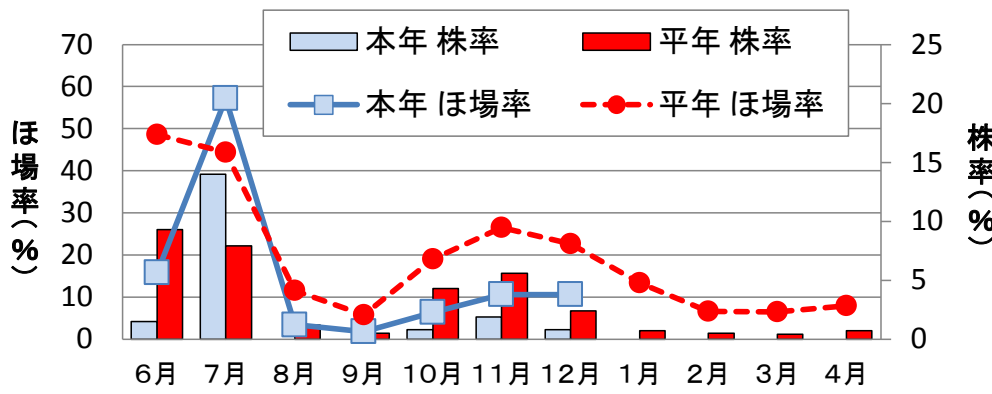


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

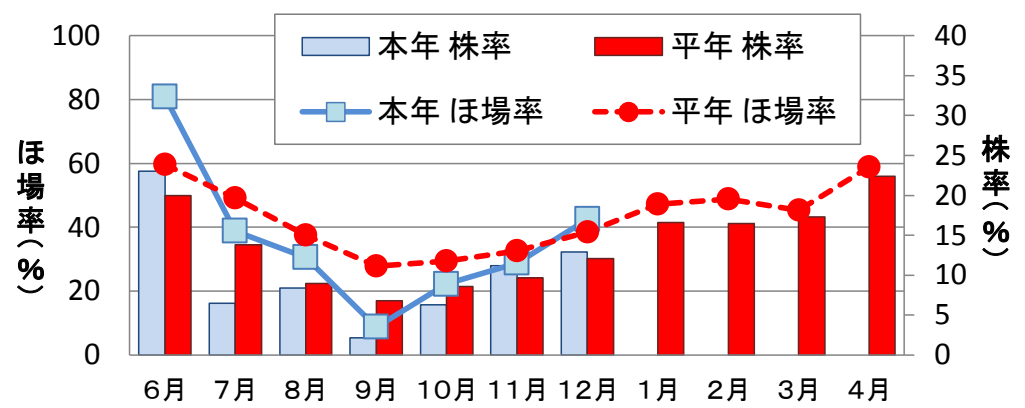


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

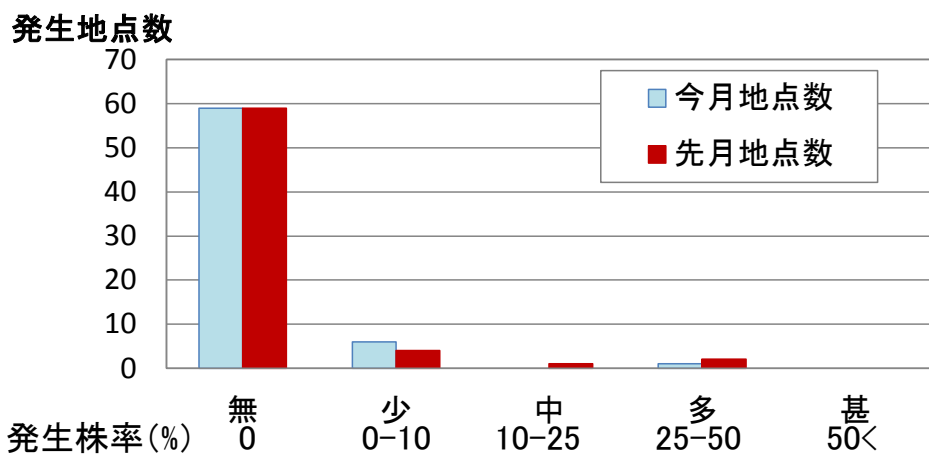


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

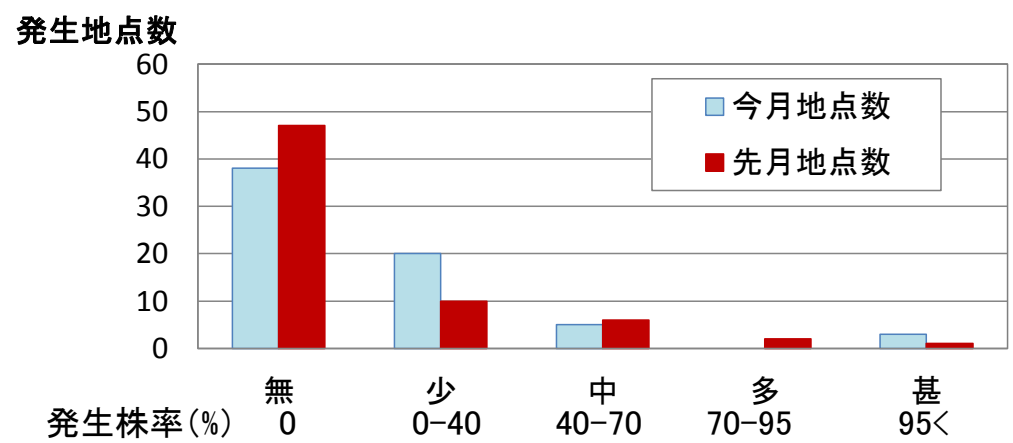


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○うどんこ病対策

- ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・発生を予防するため、硫黄粒剤でくん煙する。
- ・発生が見られたらパンチヨTF顆粒水和剤やカリグリーン等を散布する。

○ハダニ対策

- ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
- ・発生が見られたら葉裏にもよくかかるように気門封鎖剤を散布する。
- * 当センターHPIに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。



写真 うどんこ病

○今月の技術情報(技術指導班)○(12月)

- ・11月は平均気温が高く、日照時間が少ない状況となり、生育は進んでいるものの、果実は小玉果傾向、株は軟弱傾向にあります。
- ・病害では、炭疽病の発生が確認されているほ場が平年よりもやや多いものの、他の病害はやや少ない状況です。
- ・害虫は、全体的に平年並からやや少ない傾向です。
- ・ハダニ類に対する天敵の導入率は年々増加傾向にあります。しかし、その効果は放飼時期やほ場環境により差が見られます。天敵を導入しているからと過信するのではなく、害虫の発生が多く見られる場合には、速やかに防除しましょう。
- ・3か月予報では、気温は高め、日照時間は少ない予報となっています。換気時間の短縮並びに収穫盛期により防除作業が遅れがちになります。特に、うどんこ病、灰色かび病等の発生が懸念されますので、引き続き適切な温湿度管理を行いましょう。